

知床硫黄山

1 概況

上空からの観測では、噴気の状況や火口の状況に変化はなく、火山活動は静穏な状態です。

2 上空からの観測結果

5日に北海道開発局の協力で上空からの観測を実施しました。北西側中腹の爆裂火口からは、弱い白色の噴気が認められ、前回（2003年6月6日）と比べて特に変化はありませんでした。なお、山頂部は雲に覆われ観測できませんでした。



図1 知床硫黄山 北西側中腹の爆裂火口

(2006 年 10 月 5 日、周辺図→から撮影、北海道開発局提供)

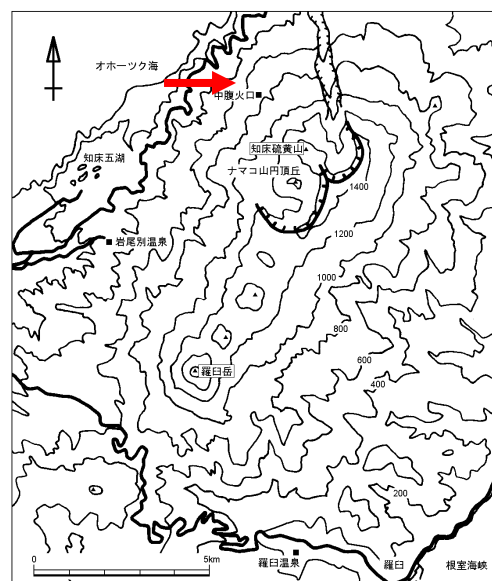


图2 知床硫黄山 火口周辺図

参考：

知床硫黄山は山頂部と北西側中腹に爆裂火口を持つ火山で、記録に残っている 1857～1858、1876、1889～1890 年および 1935～1936 年の噴火は、いずれも北西側中腹の爆裂火口で起こっています。特に最近 2 回は、火山灰の他に熔融硫黄や熱湯が噴出しています。1992 年（平成 4 年）に札幌管区気象台が実施した機動観測によると、北西側中腹の爆裂火口では、数か所で白色の噴気が観測されたほか、温泉の湧出や沸点程度の地熱が認められていました。